

防災指針の策定

1. 防災指針とは

防災指針は、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針であり、この指針に基づく具体的な取組とあわせて立地適正化計画に定めるものです。
本市における防災指針は、現行の居住誘導区域における災害リスクを分析し、防災まちづくりの方針や具体的な取組を定めます。

2. 想定される災害ハザード

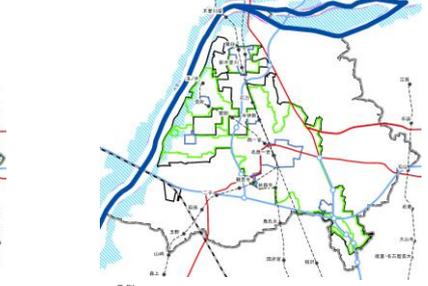
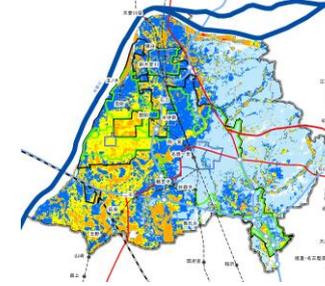
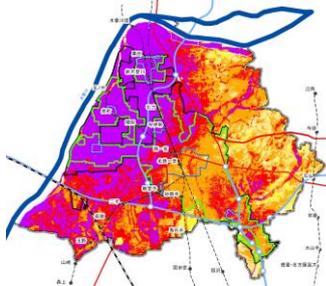
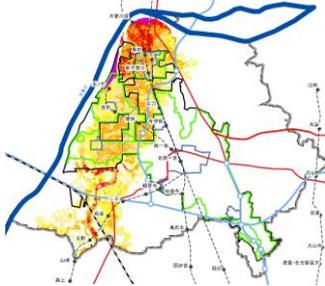
①木曾川洪水（浸水深、継続時間、家屋倒壊）

■木曾川 浸水深（計画規模）

■木曾川 浸水深（想定最大規模）

■木曾川 浸水継続時間（想定最大規模）

■木曾川 家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模）



※用語解説

想定最大規模（洪水）：想定し得る最大規模の降雨によって浸水が想定される区域及び水深
計画規模（洪水）：河川整備計画において基本となる降雨によって浸水が想定される区域及び水深

②内水（浸水実績）

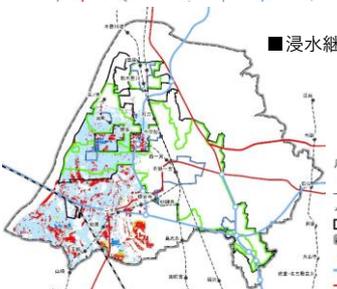


③高潮（浸水深、継続時間）

■浸水深

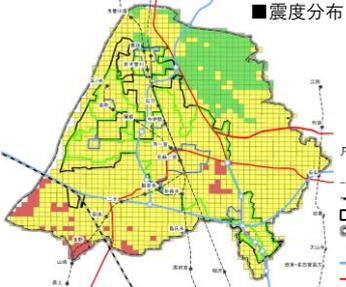


■浸水継続時間

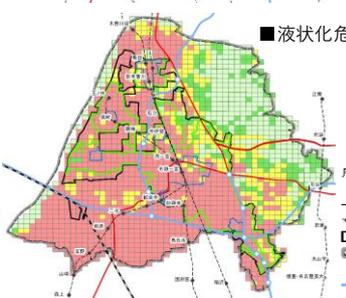


④地震、液状化

■震度分布



■液状化危険度



3. 災害リスクの分析

一宮市における災害ハザード情報の整理結果をみると、洪水や高潮、地震、液状化により市域の広い範囲に被害が及び、多く市民等への影響が懸念されるため、**避難行動をとることが重要**になると考えられます。
特に、想定最大規模による木曾川の浸水想定区域をみると、**2階への垂直避難が困難**となる浸水深3.0m以上の地域がひろがっており、**事前の水平避難が必要**になります。また、床上浸水の目安となる浸水深0.5m以上が想定される地域が居住誘導区域内においてもみられ、住宅や建物への被害が懸念されることから、浸水対策も必要となります。

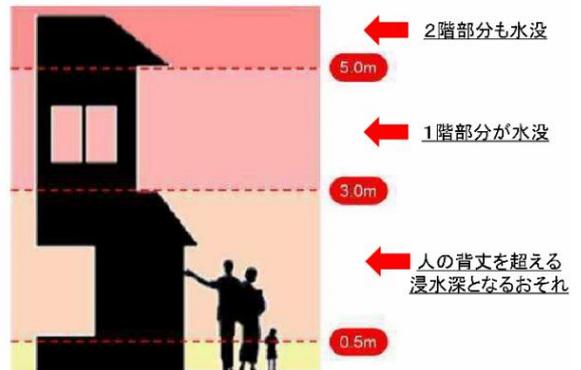
①災害の影響の大きさの視点

種別	災害ハザード	都市情報	分析内容
洪水	【計画規模・想定最大規模】 浸水想定区域（木曾川）・浸水予想図	・人口分布 ・高齢者分布 ・要配慮者利用施設分布	・災害が発生した際に影響が懸念される人口規模及び要配慮者利用施設を確認
内水	浸水区域		
高潮	【室戸台風規模・堤防等決壊あり】 浸水想定区域		

②避難行動の必要性の視点

種別	災害ハザード	都市情報	分析内容
洪水	【計画規模・想定最大規模】 浸水想定区域（木曾川）・浸水予想図 【想定最大規模】 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流・河岸浸食）	・住宅分布 ・指定緊急避難場所 ・緊急避難場所	・垂直避難が困難な住宅の分布を確認 ・建物への被害が懸念される住宅の分布を確認 ・長期の避難生活が必要となる浸水継続時間が長期間の住宅分布を確認 ・指定緊急避難場所及び緊急避難場所への水平避難が困難な地域の有無を確認
内水	浸水区域		
高潮	【室戸台風規模・堤防等決壊あり】 浸水想定区域 浸水継続時間		
地震	震度		
	液状化危険度		

■浸水深と人的被害リスクのイメージ



※用語解説

垂直避難：自宅内等での浸水しない階への避難
水平避難：浸水しない地域への避難

4. 課題の整理

○想定される災害ハザードと防災上の課題

本市における災害ハザード情報の整理結果をみると、洪水や高潮、地震、液状化により市域の広い範囲に被害が及び、多く市民等への影響が懸念されるため、**避難行動をとることが重要**になると考えられます。特に、想定最大規模による木曾川の浸水想定区域をみると、2階への垂直避難が困難となる浸水深3.0m以上の地域がひろがっており、**事前の水平避難が必要**になります。

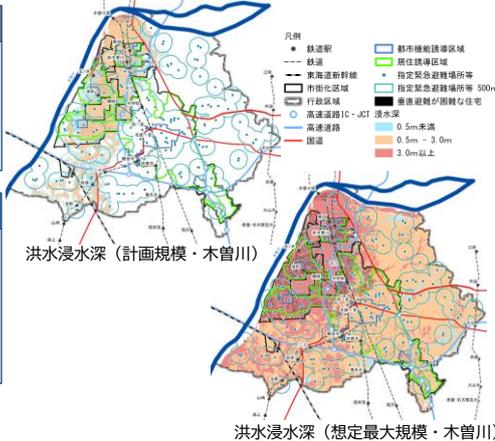
課題① 市全域での浸水へのハード・ソフト対策による総合的な対応

現状

- 木曾川想定最大規模の洪水により市域全域の浸水が懸念
- 木曾川計画規模の洪水により市西部の一部が3.0m以上浸水
- 避難場所、避難所の500m圏域から外れている地域あり

取組の方向性

- 広域的な市内外での避難
- 自力での避難が困難な高齢者や要配慮者等の早期の確実な避難行動
- 計画規模以下の洪水に対する、河川整備や排水対策などの推進により浸水の低減



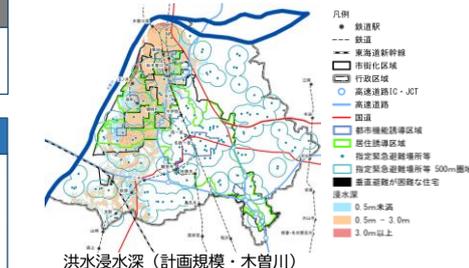
課題④ 2階以上への垂直避難が困難となる地域への対応

現状

- 居住誘導区域の一部において、木曾川の洪水により垂直避難が困難な3.0m以上の浸水の恐れ

取組の方向性

- 2階建て住宅に住む市民等の事前の水平避難
- 水平避難ができない場合、近隣の浸水想定とされていない階や建物等での垂直避難



課題② 被害が長期化する地域への対応

現状

- 想定最大規模の洪水、高潮により居住誘導区域の一部で3日以上以上の浸水が継続する可能性

取組の方向性

- 長期間浸水が継続する地域では浸水が想定されない区域等への事前の水平避難
- 事前の避難ができない場合を考え、備蓄等による自宅での避難生活の準備



課題⑤ 河岸浸食や氾濫流による被害が想定される住宅への対応

現状

- 居住誘導区域西部において、木曾川の洪水による家屋倒壊等氾濫想定区域に住宅が多く立地
- 河川沿岸の居住誘導区域において、河岸浸食による家屋倒壊等氾濫想定区域に住宅が多く立地

取組の方向性

- 家屋倒壊等氾濫想定区域での建物内避難は危険であるため、災害情報を収集し事前に水平避難



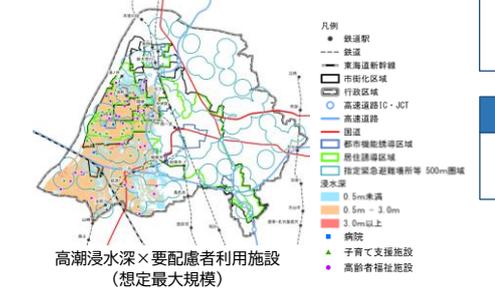
課題③ 災害時における高齢者等の要配慮者への対応

現状

- 計画規模及び想定最大規模の洪水、高潮により高齢者や要配慮者が住む家や施設の立地する地域が浸水の恐れ

取組の方向性

- 地域ごとの避難対策の検討
- 避難行動を促す地域コミュニティの強化
- 早期避難行動等、事前の避難対策の検討



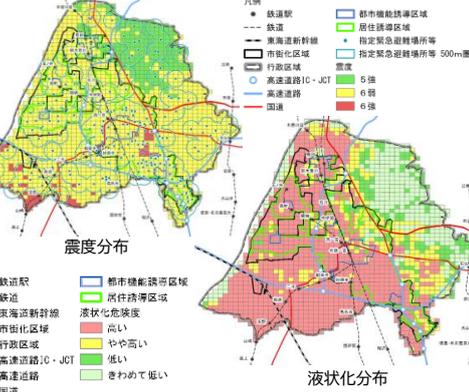
課題⑥ 南海トラフ巨大地震による市全域での揺れや液状化への対応

現状

- 地震発生時に市のほぼ全域で震度6弱、一部で震度6強の予想
- この地震により市内のほぼ全域で液状化が懸念

取組の方向性

- 建物や避難所となる施設の耐震化等の対策
- 避難経路の確保



5. 防災まちづくりの取組方針・具体的な取組

災害リスクの低減 (ソフト) ※用語解説

取組方針① 広域避難：浸水のおそれのない市内外への避難

「情報発信・意識啓発により市民一人ひとりの避難行動を促進する」

具体的な取組

- 地域・住民の防災力向上
- 防災備書の推進
- 災害リスク情報の発信・周知

取組方針② 「防災体制の強化を図り、地域防災力を高める」

具体的な取組

- 地域防災力の強化、組織運営等の支援
- 広域避難・他機関との相互協力の推進
- 個別避難計画の作成
- 要配慮者への災害対策の強化

■災害リスクの低減 (ソフト) による避難対策イメージ

【木曾川の洪水 (想定最大規模)】

広域避難イメージ

平常時の取組

- ・防災情報の発信
- ・防災情報の発信防災教育
- ・避難訓練
- ・避難経路の確保
- ・広域連携

災害時の取組

- ・災害・気象情報の迅速・確実な発信
- ・自助・共助による事前の広域避難
- ・逃げ遅れた場合の垂直避難

災害リスクの低減 (ハード)

取組方針③ 「河川整備等により、浸水等の災害ハザードをできるだけ減らす」

具体的な取組

- 河川整備計画・流域治水プロジェクトの推進
- 無秩序な開発の抑制、農地の保全
- 河川への雨水流出の抑制

取組方針④ 「建物やインフラの整備・強化により災害ハザードに強いまちづくりを進める」

具体的な取組

- 住宅・建築物等の整備推進
- 緊急輸送道路等の災害対策の推進
- 火災に強いまちづくりの推進
- 優良建築物等整備事業の活用
- 防災機能を有する都市基盤の整備
- ライフラインの整備・強化

■災害リスクの低減 (ハード) による対策イメージ

【現況 (R4.9)】 浸水深3.0m以上の浸水範囲

【中長期整備後 (R19)】

凡例

- 高熱度 (1/10)
- 中高熱度 (1/30)
- 中熱度 (1/50)
- 中低熱度 (1/100)
- 低熱度 (1/200)
- 想定最大規模
- 市町村界
- 河川等記号

